

シリーズ・原発と放射性物質による汚染

① 「放射性物質で汚染された がれき処理の問題点」

4月25日(水) 午前10時30分~12時

元京都大学教授 山田 耕作さん

東日本大震災で発生した大量のがれきを広域処理しようと、政府は各地に受け入れを要請しています。被災地の人々のことを思うと協力したいと思いがちですが、優しさだけではこの問題は解決しません。放射能汚染を拡散する恐れがあるがれき処理の問題をテーマに、被曝と被災者支援の問題を考え、食事による内部被曝にもふれていただきます。

② 「震災がれきの処理はいかにあるべきか」

5月23日(水) 午前10時30分~12時

はんげんぱつ新聞編集委員 末田 一秀さん

日本消費者連盟関西グループが発行する「草の根だより」に「放射性廃棄物を考える」という連載記事を書き続け、200回を数えたところで、福島事故が起きました。市民グループ「核のごみキャンペーン関西」で、原発廃材をフライパンに再利用可能とする放射性廃棄物のスソきり処分に反対し、一定の歯止めをかけてきましたが、放射性のがれき問題は、その歯止めすらなし崩しにしかねません。震災がれきの処理はいかにあるべきか、ともに考えたいと思います。

③ 「低線量で長期被曝による健康被害」

~チェルノブイリの教訓からフクシマを考える~

6月27日(水) 午前10時30分~12時

元京都薬科大学教授 大和田 幸嗣さん

母乳、尿、ホールボデーカウンティングによる全身検査等から、内部被曝は現在、福島県に留まらず250km離れた東京を含めた広域に広がっていることが分かっています。

今の食品安全基準値を守れば「今すぐにはなく」、長期(5,10,30年-)に渡って健康被害が起こらないのか否かを、最近明らかにされたチェルノブイリ原発事故による健康被害の実態に基づいて検討してみましょう。

④ 「食卓にあがる放射能」

7月25日(水) 午前10時30分~12時 NPO 法人チェルノブイリ救援・中部理事 河田 昌東さん

福島では放射性物質が放出され続けていて汚染が続いており、この状態で耕作してしまうと土壌表面に吸着している放射性物質が、土壌の内部にすきこまれかえって土壌深くに汚染が広がってしまいます。数年間は土壌表面5cmくらいに吸着しているということをもふまえてまずは耕すことはせず、汚染を土壌表面にとどめておくことが賢明です。また食べ物については、ペクチンが非常に強くセシウムと結合して体外に排出する働きをし、吸収量は3分の1くらいになることなど、食卓を守るための具体的なお話をいただきます。

●会場：神戸学生青年センターホール TEL 078-851-2760

(阪急六甲下車徒歩3分、JR六甲道下車徒歩10分)

●参加費：600円

※託児(無料)があります。必要な方は前々日までに予約してください。

●主催：神戸学生青年センター TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1

ホームページ <http://ksyc.jp> e-mail info@ksyc.jp

